

アジアオリエンテーリング選手権 (AsOC) 2012 レポート

2012/10/31 小泉 成行

ブログレポートより抜粋。詳細はこちら→ <http://koi.o-support.net/2012/10/index.html>

1. 大会の位置づけ

秋のオリエンテーリングシーズン。10月のメインイベントはなんといってもアジア選手権（10月15-18日）。2年に一度の大会で2010年愛知以来の開催。今年は中国無錫市周辺での開催。僕が前回優勝したロングディスタンスは今回は実施がないけれど、スプリント・ミドル・リレーが実施されます。リレーは2連覇に向けて、スプリント・ミドルは初の栄冠を目指して最後の調整中。しかし昨今の日中情勢により、オリエンテーリングに集中しづらい状態でもあります。でもどんな環境でもやるべきことは決まっているのでメンタル面の修行だと思って頑張ってきます。

2. 10月5日

今日は1日目スプリントでしたが6位でメダル獲得はなりません。昨夜の到着が少し遅れ、コンディショニングにやや難がありましたが、それ以上に中国選手がしっかり合わせてきているなという感じがします。これがアウェイの戦い。明日のミドルではアウェイらしさに対応しなんとかメダルをもぎ取ってきたいです。

女子は皆川さんが3位入賞。選手権ではジュニア含めて唯一の中国以外のメダリストでした。貴禄が違います。ちなみに女子メダリストはみんなWOCのAファイナリスト。



▲銅メダル獲得の皆川選手（表彰式での国旗掲揚と国歌斉唱はなし）

地図はちょっと??な所もありましたが、コースはなかなか面白いものを用意してくれています。地図が回収されたまま戻ってこないのをお見せできないですが、僕はルートチョイスを誤り1ヶ所大きなロスをしてしまいました。



噂の中国版 SI の“LJ”は SI のユニット（形はほぼそれ）に小さなチップを置くと音と光が出ます。レスポンスは早いです、パンチスタート・パンチフィニッシュで計測しているようでシステム運用の面でまだ改善の余地がありそうです。また一般の部ではスタートが混雑し遅刻スタートが続出するトラブルがあったようです。

そんなところもありますが、演出面ではかなり力を入れているし、スポンサーもつけているし、ブリテンもきれいな印刷だし、各国チームにボランティアがついていろいろ面倒を見てくれているし、この大会に向けてしっかり準備してくれているのだなというのを感じます。それだけに中国選手の意気込みも高いのでしょう。負けずに頑張りたいです。

3. 10/16

残念ながら本日のミドルでもメダルは獲得できませんでした。今日は移動時間が長く疲れたので詳細は後日。一般の部ではメダル取れています。

なお明日はレストで、明後日木曜日にリレ-が実施されます。男子はオフィシャルの寺嶋さんにランナーとしても登録していただき2チーム出します。女子は明日、新井選手が到着する予定で1チーム出します。寺嶋さんには突然オフィシャルをやっていただいたり、奥様にも選手のマッサージなど各種ケアをしていただき、難しい環境の中で大変お世話になっています。

4. 10/17

昨日のミドルの地図が戻って来ました。



この森は主に竹林で構成されます。ただし日本の竹林のようにうっそうとしたものではなく、明るくて走りやすい、さすが本場という竹林でした。コースはご覧のとおり日本的でもあり、うまくコントロールもされていました。地図の精度もおかしなところはあまりありませんでした。

僕は 2 番へのロングレグで道を乗り間違え少しロスをし、その焦りからつまらないミス を 4 番、8 番とで続けてしまいました。昨日の記事に載せたスプリットタイムにもあるようにそのミスタイムがそのままトップの李選手との差になってしまいました。残念ながら男子は個人戦ではメダルを取ることができませんでした。この結果についてはいろいろと考えたことがありますが、それはまた帰国してからまとめたいと思います

1 つだけ。そのスプリットタイムから李選手と僕とを比べてみると、ロングレグでは彼のほうが早く、ショートレグでは僕のほうが早いタイムを刻んでいます。つまり、フィジカルはすでに彼のほうが強く、ナビゲーションはまだ僕に利があるようです。彼はまだ 20 代前半。これからもっともっと伸びていくのではないかと思います。でもこれは日本の若い選手と比較しても同じことが言えます。彼をライバルにして切磋琢磨してもらいたいです。もちろん僕もこのまま負けたままにしたいはありません。

そんな李選手率いる中国チームとも戦うリレーはとても難しいものになるとは思いますが、経験の差を活かしてうまく戦ってきたいです。走順は男子 1 : 長縄-櫻本-小泉、男子 2 : 谷川-村越-寺嶋、女子 : 皆川-新井-加納です。

ところで今日は午前中に村越さんと一緒に AsOC 会議に出てみました。アジア各国の連盟・協会が集まりいろいろな議題について話し合いました。いろいろな話題がありましたが、次回のアジア選手権が 2014 年 8 月下旬にカザフスタンで開催することが正式に決まりました。チェコのような巨石・奇石が転が

る森で、とても楽しいオリエンテーリングができそうです。また世界選手権同様、男女混合スプリントリレーが実施される予定です。

カザフスタンってあまり馴染みのない国で行って大丈夫なの？と思う人も多いかもしれませんが、2004年にはアジア選手権の前身にあたる APOC が開催され日本人も何人が参加しました。またスキー・オリエンテーリングが盛んで、各種国際大会が開催されており、来年冬には世界選手権も開催されます。

トップアスリートにとってアジア選手権は世界選手権に出場するための重要な大会になってきます。また一般オリエンティアにとっても身近な国のライバルたちと競い、親しく触れ合える場でもあります。また普段はあまり話す機会のない日本のオリエンティアとの親睦も深まるよい機会です。今回はより多くの参加者が集まり、アジア選手権が盛り上がっていけばよいと思います。ちなみに次々回、2016 年は香港が手を挙げてくれました。

5. 10/18

まずはリレーの結果について。リレーは男女とも中国と日本の上位争いが展開されました。アジア選手権の表彰は1カ国ごとなので男子は1-2 フィニッシュの中国、3着の日本チームが銀メダル、5着のカザフスタンチームが銅メダルです。女子も同じく中国が金、日本が銀、カザフが銅です。

男子の展開しか追えませんでした。1走は日本・中国の4チームがほぼ同時に2走に継走しました。中国チームは2走にエースを置きそこで先行、日本とは4分ちよつとの差で3走へ。僕は追い上げる形となりましたが、ミスをしてタイムも中国3走に及ばず、3着でした。うまくいったとしても2着2位で、1着1位を取るのには厳しかったと思います。

また最終日はスタートが混乱し、まさにアウェーの洗礼を受けました。事前にアナウンスなく、1走はスタート1時間前にチェックインをして待機枠に入らなくてはいけないことになりました。たぶん中国ではこれがいつものスタイルなのでしょうか、みんな意外と落ち着いて動いています。よく分からない海外の選手はスタート時間が早まるのではないかとというくらい急がされました。結局スタートは時間通りなので、待機枠でゆっくり準備をしていればよかったのですが、1走の選手は準備もままならず状況も理解できずかなり焦ったと思います。会場でもスタート前の選手は会場に入れるはずだったのが、待機枠にいないといけなくなっておりチームのサポート計画が外れました（そのスタイル自体は、実はかなり厳密な公平性を保てていると思うのですが）。

実はスプリント、ミドルの日もスタートチェックインがどんどん早まっていた。ミドルの日は10分前にチェックインするはずだったのに、最後は50分前にチェックインしろと言われる始末。最終的にはチェックインゲートがさっさと片付けられ、選手はチェックイン前の場所に戻って予定通り準備ができるのですが、中国らしい一面を見ることができました。地図の精度もリレーで利用したものはこれまでの地図に比べるとちよつと甘かったかなという感じがします。

しかしそんなこんなでドタバタした中でもみんなきちんとレースをしてきました。この経験は結果以上に今後の強さに繋がると思います。期待には十分応えられなかったかもしれませんが、応援ありがとうございました。



5. まとめ

これまでのアジア選手権 AsOC の各レースの結果や概要を伝えてきました。最後にまとめを書いて締めくくりたいと思います。

男子は全レースで中国勢に完敗しまい正直とても悔しいです。彼らにホームの利があるとは言え、世界選手権でのパフォーマンス差を考えるともっと接戦になるんじゃないかと思っていたので、事前の準備で甘くみていたというのも否定できません。世界選手権での差も数年前に比べるとほとんどないに等しくなっています。いつまでアジアのライバルと言われているのか、気づいたら彼らのほうが先に上に行ってしまうのではないかと、という兆しもあります。

それは彼らの実力が上がってきていること以上に、組織の力の差を感じるからです。今回の大会は、競技運営上のドタバタはいくらかありましたが、大会のハード面では日本での大会を超えていたような気がします。スタートやゴールのゲートもしっかり作り、大型スクリーンを設置し、ウェブカメラで中継をしていました。大会バスはパトカーに先導され、大会歓迎の看板もいたるところで見られました。こういったことができるのは人脈や資金がしっかりあるからだろうと推測されます。お国柄が違えばそれまでですが、オリエンテリングを普及しようと協会を挙げて取り組んでいるというのはいろいろな人の話を聞く中で感じられました。

一方でアナウンスは中国語中心、スクリーンでの中継も効果的には行われておらず、競技上のドタバタも含めてソフト面ではまだまだ成熟していないところもあります。そんな彼らが組織力を活かして人材育成をうまくはめてきたときはどうなることかわかりません。競技だけではなく、他の分野でもライバル、強敵になっ

ていくのではないかと思います。

そんなこともあり中国の選手はほとんどまったく英語が話せないので、これまであまりフレンドリーな印象を受けなかったのですが、今回の大会を通じてやっぱりオリエンティア、みんなシャイだけどナイスガイということが分かりました。ちっとも通じないけれどめげずに何度も話しかけてみたので、さすがに顔くらいは覚えてくれたと思います。彼らに「今日はよかったじゃないか」と言ってもらえるようなレースをするべく、日々精進していきたいです。

この大会は東アジアの様々な問題を抱えながらの開催でしたが、開催され、そして参加できて本当によかったと思いました。好きなことについて語るのに国や人種は関係なく、オリエンティアとしての友情を深めることができます。アジアというオリエンテーリング後進地域にいるからこそ、その結束力はより高まるようにも思います。次回アジア選手権は 2014 年カザフスタンでの開催、2016 年は香港での開催予定です。ぜひ仲間を増やしに出かけてみてほしいです。